NPO 法人　すいた市民環境会議

環境楽座 2021（令和3年度大阪府環境保全活動補助金交付事業）

『環境楽座2021』*（全6回）を実施しました。

2021年度は6講座。副題は「今日からはじめるエコアクション」

今回は気候危機への具体的なアプローチを紹介しています。
対面の講座のほか、観察会、見学会、オンライン講座もあります。

＊環境会議は 2011 年から始めた環境講座を「環境楽座」と命名しました。
環境問題を考えアクションを起こすために、楽しく学ぶところからスタートしようと思ったのです。

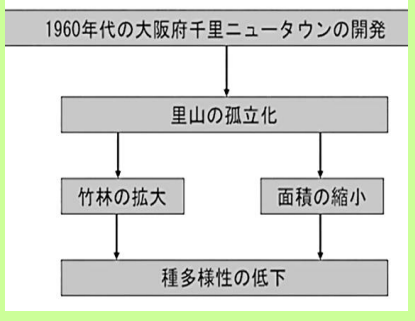
『環境楽座 2021』のちらし

第1回　すいたの生物多様性（講座編）

9/26　講師：**武田義明**さん（神戸大学名誉教授）

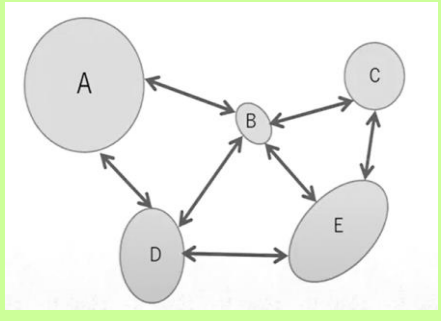
公園・緑地・森林、法面・畦畔・水田・ため池、さらには道路・石垣に至るまで、様々な環境に生物が住んでいます。今も残っている貴重な生態系・動植物を守るためには、「生物多様性吹田市戦略」が必要です。

千里ニュータウンの緑地の変遷



千里ニュータウンの緑地は開発によって分断され、縮小し、さらに竹林の拡大によって種の多様性が失われた。

生息地のネットワーク



異なる緑地環境には異なる生物が生息する。緑地が繋がる距離にあることで多様な生物が入ってくる。緑地をネットワーク化することが必要。

第2回　すいたの生物多様性(観察会編)

10/2　講師：**武田義明**さん(神戸大学名誉教授)

『レッドリストすいた 2021』で生態系 A ランクとした「青山台法面」での現地観察会。
ここには、大阪府レッドリストでの絶滅危惧種 4 種が生育。
ヤマサギソウは季節的に見られないものの、イヌセンブリ・アイナエは花、そしてスズサイコの実も観察できました。
4 種以外にも『レッドリストすいた 2021』で A ランク種としたコケオトギリなど、コース内に 50 種以上の花が咲いていました。

多種多様な植物と昆虫が生息していた「チガヤ草原」は住宅地へと改変が進む

残された草地で絶滅危惧種を探す

アイナエ　吹田市 A
大阪府絶滅危惧 I 種

コケオトギリ　吹田市 A

参加者全員集合　全員マスク姿で記念写真

第3回　わたしからはじめる サスティナブルなくらし

10/17　～環境家計簿をはじめよう～

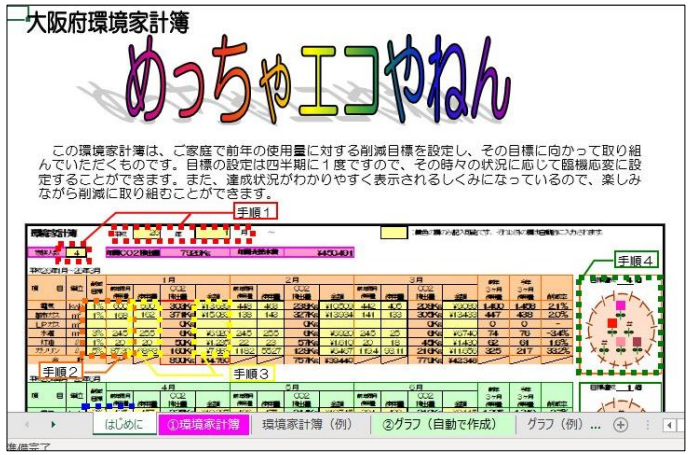
講師：**すいた市民環境会議　生活環境委員会**

2021 年8月に公表された気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第 6 次評価報告書では、「人間活動が温暖化させてきたことは疑う余地がない」と再確認されました。

私たちの住む地球の年度ごとの気象の移り変わり、世界中で進行する異常気象の経過(気象庁 HP)を眺めながら、各テーブルで意見交換。
気候危機を自分ごととしてとらえ、自分でアクションを起こす方法を考えました。

方法として「環境家計簿」やエコクッキング(保温調理)などを紹介しました。

「環境家計簿」は、くらしの無駄なエネルギー消費に気付き、使用量を減らす方法。
いくつかの減らす方法を実行しつつ、電気やガス、水などの使用量を記録します。減った増えたを可視化することで、意識が変わります。
1997 年京都での COP3開催当時から、全国のさまざまな団体が実施してきたものですが、再びやってみようという提案です。



大阪府の環境家計簿　ダウンロードして使う
ほかにもいろいろなタイプのものがあるので自分に合ったものを探してみて

保温調理
材料を入れ、沸騰した後、鍋をバスタオル、新聞紙(1 日分)、キルトなどに 30 分ていど包む
鍋の中身は 80℃で持続し煮崩れせず、味が浸みる
ガスや電気などの使用量を抑えた調理法で煮込み料理にぴったり！

第4回　知っておきたい
炭とバイオエネルギー(見学会)

食用に適さない農業残渣を炭にして活用を目指す
左:サツマイモの炭
右:栗のイガの炭

11/21　講師:**島田勇巳**さん
（高槻バイオチャーエネルギー研究所所長）

見学したのは高槻市の山間部にある研究所。
従来の「平炉式製炭炉」に加え「密閉式パッケージ型製炭炉」の実証実験が行われています。
そのままではごみになってしまう伐採枝や農業残渣など地域の未利用資源を使って炭を作り、燃料や土壌改良、水質浄化などに利用。
製造中にできた熱による発電や温水利用も可能です。

炭の用途は広がっており、またプラスチックの炭化も可能とのこと。
地域のみならず世界の課題解決に役立つかも。

密閉式パッケージ型製炭炉
約 2mの鉄製の箱型で
コンパクトなため、外装をフォークリフトではずせば、中のゲージで炭化する

炭のほか炭化による熱を利用して温水・冷暖房に利用可能

密閉式であるため火の調整が簡易
トラックに載せて運ぶことができるので、資源発生場所の近くで炭化作業ができる
工業製品なので量産が可能
平炉は「施設」だが、これは「製品」なので、リース対応が可能

平炉式製炭炉を囲んで島田所長の熱のこもった話を聞きました

第５回　海を守ろう！
プラスチックごみの今

●環境楽座 2021

12/12　講師：**原田禎夫**さん
（NPO 法人プロジェクト保津川代表）
世界のプラごみの現状と対策、保津川での活動について、グラフや映像を駆使して解説していただきました。

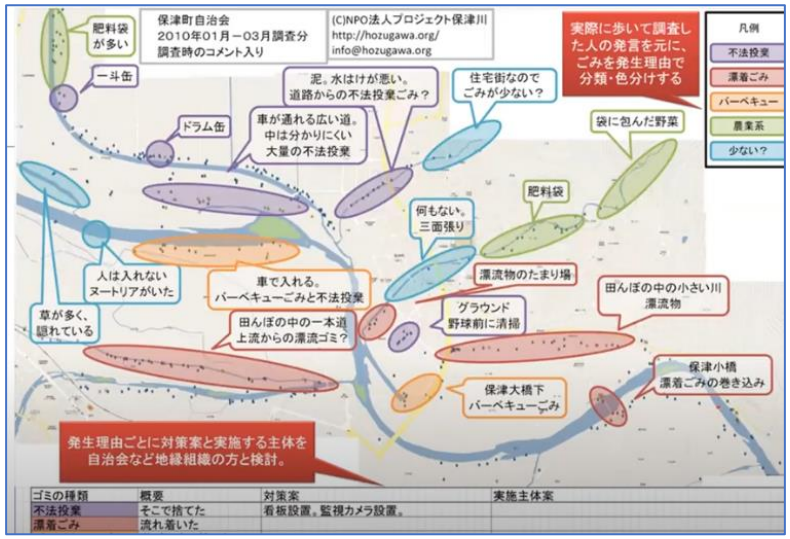
プラスチック問題ははポイ捨てだけではなく、私たちの暮らし方に原因があります。
北太平洋のミッドウェイ環礁のコアホウドリの死骸からは大量のプラスチック片が見つかります。その 50%が日本のごみとのことです。

プラスチックは砕けて、マイクロのレベルを超え、ナノレベルになっていきます。
魚貝から、水道の水からもプラスチックが検出されています。
欧米では、プラスチック汚染と言っています。
今後、どのような健康被害があるか、
どのような問題が引き起こされるか、よくわからないのです。

2021 年１月、亀岡市は市民の声に後押しされて
レジ袋禁止条例を施行し、レジ袋のごみは激減しました。
レジ袋はプラスチックごみの3%以下なのでやっても無駄だという声がありますが、3%を減らせないで何ができるというのでしょう。

吹田市の皆さんは、ごみに関して先進的な取り組みをされてきました。
一緒に楽しいことができたらいいですね。

保津川の景観を汚すのは川岸に引っかかったレジ袋
真っ先に川下りの船頭さんたちがごみ拾いを始め、原田さんたちは自治会や企業と協働でごみの分布調査（ごみマップ）やクリーン作戦などを展開
調査することが大事



2011年
20L ごみ袋190袋と粗大ごみ多数

2016年
ごみ袋10袋になった

第６回　福島発！
再生可能エネルギーの今

1/29　講師：**近藤　恵**さん
（二本松ご当地エネルギーを
みんなで考える株式会社　代表取締役）

福島県二本松市で有機農業経営をしていた2011年、原発事故によってやむなく廃業。知り合いの農家がせっかく作った米を焼却する場面に立ち合い、その無念さをかみしめました。（特別隔離米として 37000tを焼却）

2018年、「二本松ご当地エネルギーをみんなで考える株式会社」（略称ゴチカン）を立ち上げ、現在、農業と太陽光発電を組み合わせた複合農業経営をしています。

2021年5月には「二本松営農ソーラー」を設置しました。これはソーラーシェアリングです。6ha の土地に 9500 枚のパネルで 4MW の発電をしつつ、その下が耕作地となります。これは作物の生育には充分な光を確保しつつ、売電によって農業経営を安定させ、若い人の意欲になるなど、これからの農業経営の切り札になると思います。

ただ、物理的に柱がじゃまです。ドイツには垂直で両面発電するパネル（発電量は片面の 138%）があり、今年3月に日本で初めてこれを利用した垂直営農ソーラーを設置します。大きなトラクターが入れます。

パネルがいずれはごみになるので設置に反対という意見がありますが、産廃全体や原発のごみと比べても少なく、クリアできる問題だと思います。エネルギーはどうあるべきかの議論を深めていくことが必要で、常に研究しチャレンジしていかねばならないと思っています。

二本松営農ソーラー
ソーラーパネルは間隔があり、作物への日当たりが考えられている

パネルの下はとても明るい
中央の苗は
シャインマスカット
収穫は4年後
ほかに小麦、ソバ、エゴマなども